

### 寄贈図書リスト

不機嫌な太陽, H. スペンスマルク/N. コールダー 著,  
桜井邦朋 監修, 青山 洋 訳, A5判, 252頁,  
2,940円, 恒星社厚生閣  
宇宙から恐怖がやってくる, フィリップ・プレイト  
著, 斉藤隆央 訳, 四六判, 420頁, 2,000円+税,  
NHK 出版

人生一般=相対論, 須藤 靖, B6判, 210頁, 2,400円  
+税, 東京大学出版会  
宇宙科学入門 第2版, 尾崎洋二, A5判, 270頁,  
3,600円+税, 東京大学出版会  
HUBBLE ハッブル望遠鏡 時空の旅, エドワード・J・  
ワイラー著, 縣 秀彦監 訳, 310mm×250mm,  
147頁, 3,200円+税, インフォレスト株式会社

## 月報だより

月報だよりの原稿は毎月20日締切、翌月に発行の「天文月報」に掲載致します。校正をお願いしておりますので、締切日よりなるべく早めにお申し込みください。

e-mail で [jimu@geppou.asj.or.jp](mailto:jimu@geppou.asj.or.jp) 宛。

なお、原稿も必ず Fax で 0422-31-5487 までお送りください。

### 人事公募

標準書式：なるべく、以下の項目に従ってご投稿ください。結果は必ずお知らせください。

1. 募集人員（ポスト・人数など）、2. (1) 所属部門・所属講座、(2) 勤務地、3. 専門分野、4. 職務内容・担当科目、5. (1) 着任時期、(2) 任期、6. 応募資格、7. 提出書類、8. 応募締切・受付期間、9. (1) 提出先、(2) 問合せ先、10. 応募上の注意、11. その他（待遇など）

#### 九州大学大学院理学研究院地球惑星科学部門 教員（准教授）

1. 准教授1名  
2. (1) 九州大学大学院理学研究院地球惑星科学部門 太陽惑星系物質科学講座  
(2) 福岡県福岡市  
3. 原始惑星系円盤の進化と惑星系の形成に関する研究  
4. 実験、観測または理論的手法により研究を行い、かつ、全学・学部・大学院教育に熱意のある方  
5. (1) 決定後できるだけ早い時期  
(2) なし  
7. (1) 履歴書 (2) これまでの研究概要（A4用紙2枚以内） (3) 研究業績リスト（査読のある英文原著論文、著書、総説に区分） (4) 主要英文原著論文3編の別刷またはコピー（研究業績リストに○印を付す） (5) 研究に対する抱負（A4用紙2枚以内） (6) 教育に対する抱負（A4用紙1枚程度） (7) 応募者を熟知し、意見を聞ける方2名の氏名とその連絡先、並びに応募者との関係

8. 平成22年7月15日（木）必着
9. (1) 〒812-8581 福岡市東区箱崎6-10-1  
九州大学大学院理学研究院地球惑星科学部門  
太陽惑星系物質科学講座 准教授候補者選考  
委員会 委員長 関谷 実  
(2) 〒812-8581 福岡市東区箱崎6-10-1  
九州大学大学院理学研究院地球惑星科学部門  
関谷 実  
Tel: 092-642-2669（ダイヤルイン）  
Fax: 092-642-2684  
E-mail: [sekiya@geo.kyushu-u.ac.jp](mailto:sekiya@geo.kyushu-u.ac.jp)
10. (1) 提出書類のうち、(4) 以外は全てA4用紙を使用すること。(2) 封筒に「応募書類在中」と朱書し、簡易書留で郵送のこと。(3) 提出書類は返却しません。審査後、責任を持って処分します。(4) 選考の最終段階において講演をお願いし、面接を行います。
11. 男女共同参画社会基本法（平成11年法律第78号）の精神に則り、教員の選考を行います。

### 研究助成

#### 住友財団 2010年度 基礎科学研究助成

対象

理学（数学、物理学、化学、生物学）の各分野及びこれらの複数にまたがる分野の基礎研究で萌芽的なもの（それぞれの分野における工学の基礎となるものを含む）

応募資格

若手研究者（個人またはグループ）

## 助成金額

- (1) 助成金の総額 1億6,000万円  
 (2) 1件当たりの助成額 最大500万円  
 (3) 助成件数の目処 100件程度  
 (4) 助成期間 1年間 但し希望される場合は更に6カ月間を限度として延長可。

## 応募方法

住友財団のホームページ (<http://www.sumitomo.or.jp/>) 基礎科学研究助成から、募集要項・申請書記入要領・申請書フォーム (PDF WORD) をダウンロードして申請書ファイルを作成していただきます。その後、ファイルから申請書を印刷して財団まで郵送していただきます。

## 応募締切日

データ送信の締切 2010年6月23日(水) 必着  
 郵送書類の締切 2010年6月30日(水) 必着

## 連絡先

〒105-0012 東京都港区芝大門1-12-16 住友芝大門ビル2号館  
 公益財団法人 住友財団 (担当 中山)  
 Tel: 03-5473-0161 Fax: 03-5473-8471  
 E-mail: [sumitomo-found@msj.biglobe.ne.jp](mailto:sumitomo-found@msj.biglobe.ne.jp)  
 URL: <http://www.sumitomo.or.jp/>

## 藤原セミナーの募集について

## 趣意

藤原科学財団は、科学技術の振興に寄与することを目的として、「藤原セミナー」の開催を希望する研究者から、申請を受け、選考の結果採択を決定したものについて、セミナー開催に必要な経費を援助いたします。

1. 対象分野: 自然科学の全分野
2. 応募資格: わが国の大学など学術研究機関に所属する常勤の研究者
3. 開催件数: 2件以内
4. 開催費用援助額: 1件につき12,000千円以内
5. セミナー対象期間: 2011年1月1日～2012年12月31日
6. 申請受付期間: 2010年(平成22年)4月1日(木)～同年7月31日(土)(必着)
7. 申請方法: 「セミナー開催申請書」(1通)を所属機関長を経由して当財団に提出すること。なお、著名な参加予定者については、セミナーのテーマに関する主要論文(5名以内)1人につき1編、コピーで可)を添付のこと。
8. 申請書提出先・連絡先  
 〒104-0061 東京都中央区銀座3-7-12

財団法人 藤原科学財団

Tel: 03-3561-7736 Fax: 03-3561-7860

藤原科学財団ホームページ:

<http://www.fujizai.or.jp> (なお、ホームページにも開催申請書が掲載されております。)

## (財)井上科学振興財団、第27回井上學術賞・研究奨励賞などの受賞候補者

(財)井上科学振興財団(井口洋夫理事長)は第27回(2010年度)井上學術賞、研究奨励賞などの受賞候補者の募集をしております。

## 第27回井上學術賞

1. 概要: 自然科学の基礎的研究で特に顕著な業績を上げた50歳未満の研究者に対し、學術賞(賞状および金メダル、副賞200万円)を贈呈する。
2. 募集方法: 指定の関係34学会、および財団の役員・評議員等からの推薦。
3. 天文学会からの推薦件数: 2件
4. 推薦締切日: 2010年8月20日(金)学会着
5. 申込用紙の必要な方は天文学会事務所か下記財団のホームページにあります。ほかに井上研究奨励賞、国際研究集会開催援助、国際研究集会出席旅費、外国人研究者招聘、井上フェロー、井上リサーチアウォード(7月31日締切)久保亮五記念賞(6月30日締切)などの募集も行っております。こちらは井上科学振興財団へ直接応募となっております。

◎照会先: 財団法人 井上科学振興財団

〒150-0036 東京都渋谷区南平台町15-15

南平台今井ビル601

ホームページ: <http://www.inoue-zaidan.or.jp/>

Tel: 03-3477-2738 Fax: 03-3477-2747

e-mail: [inoue01@inoue-zaidan.or.jp](mailto:inoue01@inoue-zaidan.or.jp)

## 第4回(2010年度)湯川記念財団・木村利栄理論物理学賞の候補者募集

授賞分野・対象: 重力・時空理論、場の理論と、その周辺の基礎的な理論研究において顕著な業績を上げており、かつ、受賞以降も対象分野で中心的な役割を果たしていくことが期待される研究者を対象とし、原則として毎年1件に授与する。

顕彰: 受賞者には、賞状及びメダルと副賞(60万円/1件)を授与する。

推薦方法: 他薦のみ。推薦者は、所定の推薦票など下

記 HP に記載の書類を郵便又は e-mail に提出先に送付下さい。

募集要項・推薦票は <http://www2.yukawa.kyoto-u.ac.jp/~kimuratp/kimurasho/index.htm> からダウンロードして下さい。

推薦締切: 2010 年 7 月 1 日 (木) 必着

提出先: 郵送の場合: 簡易書留で, 606-8502 京都市左京区北白川追分町  
京都大学基礎物理学研究所  
木村利栄理論物理学賞選考委員会  
[kimurasho@yukawa.kyoto-u.ac.jp](mailto:kimurasho@yukawa.kyoto-u.ac.jp)

## 研究会・集案案内

### 京都大学 飛騨天文台一般公開のお知らせ

京都大学飛騨天文台では, 来る 7 月 31 日 (土) に一般公開を行います。施設の公開と天体観望会を行い, 京大天文台で現在行われている最先端の天文学研究を, わかりやすく説明します。運営管理上, 先着 100 名までの受付となっておりますので, お早めにお申し込み下さい。

〈一般公開〉

日時: 2010 年 7 月 31 日 (土) 13:00~20:30

場所: 岐阜県高山市上宝町蔵柱

京都大学大学院理学研究科附属飛騨天文台

公開施設と内容:

〈昼〉 ドームレス太陽望遠鏡による太陽像と分光スペクトル観望。

太陽磁場活動望遠鏡による太陽像の解説。

最先端の天文学研究解説 (講演)。

〈夜〉 65 cm 屈折望遠鏡, および小型望遠鏡による天体観望 (二重星, 星団など)。

〈交通機関〉

公共交通機関がありませんので, JR 高山駅または上宝支所までお越し下さい。

JR 高山駅と上宝支所からシャトルバス (有料) を運行します。

詳細は, 附属天文台のホームページをご覧ください。

〈申込方法〉

ホームページからお申し込み下さい。

締切: 6 月 25 日 (金) (先着 100 名まで)

〈問い合わせ先〉

〒506-1314 岐阜県高山市上宝町蔵柱

京都大学飛騨天文台

Tel: 0578-86-2311 Fax: 0578-86-2118

E-mail: [hida2010@kwasan.kyoto-u.ac.jp](mailto:hida2010@kwasan.kyoto-u.ac.jp)

E-mail でのお問い合わせの場合は,

件名を「7/31 飛騨一般公開」として下さい。

〈附属天文台ホームページ〉

<http://www.kwasan.kyoto-u.ac.jp/>

〈主催〉

京都大学大学院理学研究科附属天文台, NPO 法人  
花山星空ネットワーク

〈後援〉

岐阜県高山市

### 第 19 回公開セミナー「天文学の最前線」 ～暗黒宇宙～の案内文

名古屋大学と名古屋市科学館では年に一度, 第一線で活躍する天文学研究者を集め, 一般向けのわかりやすい講演会と体験型研究室紹介を開催しております。19 回目となる今年のテーマは「暗黒宇宙」です。天文学に登場するさまざまな暗黒問題に対し研究者がどのように挑んでいるかについて最先端の研究成果とともに講演します。

日時: 平成 22 年 8 月 18 日 (水) から 20 日 (金)

会場: 18 日: 名古屋市科学館・サイエンスホール

19 日: 名古屋大学・IB 電子情報館

20 日: 名古屋大学・野依記念学術交流館

主催: 名古屋大学大学院理学研究科, 名古屋市科学館

講師: 嶺重 慎 (京都大学 教授), 伊藤好孝 (名古屋大学 教授), 吉田直紀 (東京大学 IPMU 准教授), ほか

内容: 講演会 (18, 19 日), 体験型研究室紹介 (20 日)

対象: 高校生以上

定員: 300 名 (高校生・大学生・教員優先。体験型研究室紹介は定員 100 名)

資料代: 500 円 (学生), 1,000 円 (一般)

締切: 7 月 19 日 (月) 必着

申込方法: インターネットまたは往復ハガキ

○インターネット: 公開セミナーホームページ

<http://www.ncsm.city.nagoya.jp/astro/seminar/> より

○往復はがき:

【返信面の裏面】に, 住所, 氏名, 参加人数, 高校生・大学生・教員・一般の区分, 研究室紹介参加希望の有無,

【返信面の表面】に, 参加代表者の住所と氏名 (※返信面の裏には何も記入しないで下さい)

を記入の上, 下記までお送り下さい。

〒460-0008 名古屋市中区栄二丁目 17 番 1 号

名古屋市科学館「公開セミナー」係  
 (申込時の情報は、主催者開催のセミナー等の案内以外には使用しません。また、締切後、1週間程度で受講票をお送りします。当日は受講票を持参の上、参加下さい)

問い合わせ先: 名古屋大学大学院理学研究科 At 研  
 「公開セミナー係」(市来)  
 Tel: 052-788-6193  
 URL: <http://www.ncsm.city.nagoya.jp/astro/seminar/>

## ユニバーサルデザイン天文教育研究会の開催案内

日 時: 2010年6月6日(日)午前10時~7日(月)午後4時(予定)

主 催: 国立天文台

共 催: 天文教育普及研究会

会 場: 国立天文台(三鷹市大沢)

参加費用: 1,000円(予定)

内 容: 「ユニバーサル(誰もが楽しめる)」な天文教育普及をテーマの研究会を開催します。宇宙や星について知る・学ぶ楽しみは世代や性別、障害の有無にかかわらず共有されるべきですが、昨今の現状は、残念ながら「ユニバーサル」という言葉からはほど遠いといえます。そこで、天文関係者のみならず障害者教育や病院活動などでご活躍の方も交え、従来とはひと味違った「天文教育普及活動」について共に語り合うための研究会を企画しました。今までの活動でとかく忘れられがちな障害者(視覚、聴覚など)や特別支援学校の生徒、病院に長期入院中の子どもなどを対象とした天文教育普及活動について事例発表をもとに、さまざまな人々と「知る喜び、感じる喜び」を共有できる天文教育普及活動のあり方について議論を深めます。

申込み・問合せ: 606-8502 京都市左京区北白川追分町  
 京都大学大学院理学研究科宇宙物理教室  
 嶺重 慎  
 (e-mail: [UDWS2010@kusastro.kyoto-u.ac.jp](mailto:UDWS2010@kusastro.kyoto-u.ac.jp),  
 Fax: 075-753-3897)  
 詳細は、<http://tenkyo.net/wg/ud2010.html>  
 をご覧下さい。

## 会務案内

### 【理事会議事録】

日 時: 2010年3月26日(金)12:35~14:25  
 場 所: 広島大学東広島キャンパス 理A017会議室  
 出席者: 國枝理事長、柴田副理事長、渡邊副理事長、  
 竹田庶務理事、高田庶務理事、田代会計理事、  
 田村会計理事、堂谷PASJ理事、児玉月報理事、  
 本間年会実行理事、半田天文教育理事、  
 小川、藤沢、小嵐、藤本年会開催地理事(以上15名)

また、宮下事務長が出席した。

議事に先立って議長と署名人の確認がなされた。

議 長: 國枝秀世

署名人: 高田唯史、竹田洋一

### I. 報告

#### I-1. 前回議事録の確認

資料1に基づいて前回(2010年1月9日)の理事会議事録が報告・確認された。

#### I-2. 開催中の年会について

本間年会理事より目下開催中の春季年会についての進行状況(記者会見、講演発表数、現時点の参加者数、など)が報告された。

#### I-3. 今後の年会について

本年2010年秋季年会(金沢大、9/22-24)の準備状況が藤本開催地理事より報告された。公開講演会(9/25)の講師は3名を予定しており、現在交渉中である。

#### I-4. 担当理事からの近況報告

天文教育(半田理事): 講師派遣の需要の増加、天文教育委員会とジュニアセッション実行委員会との関係強化に向けての体制の構築。

天文月報(児玉理事): 天体発見賞記事の依頼、編集部内部の人事異動。

PASJ(堂谷理事): PASJ紙版配布停止申し込み状況、特集号の今後の予定。

会員管理(竹田理事): 本年度から会費後納になったことの会費納入状況への影響。

#### I-5. 臨時理事会報告

竹田庶務理事より2月23日に行われた臨時理事会の報告があった(資料2)。

メインの議題となった財務規定の改定(これについては宮下事務長からも資料3に基づき経緯の補足説明があった)、賛助会員への見返りに関する実情報告(当日配付資料)、など。

I-6. 理事長公選について

総会に議案として提出される理事長選挙施行細則の最終案(資料4)が國枝理事長から説明され、決まった場合の選挙実施日程が確認された。

I-7. 新入会員等報告

前回の理事会以降の入退会等による会員の変動について竹田庶務理事からまとめて報告があった(資料5)。

I-8. 理事・委員の改選に向けて

竹田庶務理事より、来期(2011-2012年)の理事と委員会メンバーの(6月の理事会・評議員会でリストを提示して9月の総会で承認)候補の準備をしてもらうべく各委員長等への依頼を始めていることが報告された。

I-9. 理事会体制の将来的改革について

國枝理事長より、3年後までには法人格の移行により現在の定款を変えざるをえないので、その機会に現在の理事や委員会の体制を改めて見直して現代のニーズに応えるべく一部改組などの変更(たとえば国際化対応や広報普及などの活動に力を入れたものにするなど)をしてはどうか、との提言があった。

II. 議題

II-1. 巡回展の今後について

半田教育理事より、昨年行った世界天文年の巡回展は好評につき本年も継続する方向で開催希望を募ったところ、予想以上の数の回答があり、予定していた2010年12月末まででは終了できないことがわかった。このため、2011年5月頃までの開催を最後としたいとの提案があり、了承された。

II-2. 旅費規程の制定について

日本天文学会関係の会議や講演会等の行事に出席する際の旅費の支給についてはこれまで明確な決まりがなかったため、正式な規程を作成するべく田代理事からたたき台として出された試案(資料6)について議論したが、時間不足もあって意見の収束までに至らず次回以降に継続審議となった。次回の理事会は6月19日(土)に行われる予定。

[資料]

- 資料1. 前回の理事会(2010.1.9)議事録
- 資料2. 臨時理事会(2010.2.23)議事録
- 資料3. 財務規程(内地留学奨学金, 研究奨励賞, 早川幸男, 林忠四郎賞, 創立百周年記念出版事業の各基金)
- 資料4. 理事長選挙施行細則(最終版)
- 資料5. 入退会者リスト
- 資料6. 旅費規程案

(当日配付分)

- a. 賛助会員への見返りについて
- b. 2009年度賛助会費に基づく活動報告書  
2010年4月13日

議長: 國枝秀世 ㊤  
署名人: 高田唯史 ㊤  
署名人: 竹田洋一 ㊤

【総会議事録】

開催日時: 2010年3月26日(金) 16時00分~17時30分

開催場所: 広島大学 法経 B257 教室

出席者の確認の結果、事前投票総数(会場参加者との重複は除く)は352名、会場参加は157名であった。(出席者のうちで事前投票をしたものは事前投票の方を無効とした。)有効出席者総数は509名で、定足数(正会員総数1697名の5分の1=339名)を満たしていることを確認した。

議長は規約に則り國枝理事長が務めた。次に署名人として山下卓也氏, 桜井 隆氏が選出された。

2009年度日本天文学会各賞授与式:

相馬天体発見賞選考委員長の司会のもと、天体発見賞と天文功労賞が以下の方々授与された。

[天体発見賞]

板垣公一氏(15件), 野口敏秀氏(1件), 西山浩一氏・椋島富士夫氏(5件), 西村栄男氏(1件)

[天文功労賞]

(長期的な業績)板橋伸太郎氏(欠席)  
(短期的な業績)SonotaCoネットワーク(代表: 植原 敏氏), 三品利郎氏, 佐藤英貴氏  
受賞者を代表して西山浩一氏から挨拶があった。

次に、林 忠四郎賞, および欧文研究報告論文賞が以下の方々授与された。

林 忠四郎賞 常田佐久氏  
欧文研究報告論文賞 藤本龍一氏(他共著者9名)  
(なお、研究奨励賞の内山泰伸氏, 前田啓一氏, 山崎了氏への授与式は総会前日の3月25日に行われた。また天体発見功労賞の受賞者は今回なかった。)

議事の経過ならびに結果:

1. 竹田庶務理事が資料に基づき、2009年度事業報告書の説明を行った。  
(第1号議案)
2. 田代会計理事が資料に基づき、2009年度決算報告書の説明を行った。  
(第2号議案)
3. 唐牛監事により、この事業報告・決算報告の両報

告書が2010年1月5日に行なわれた監査で、正当と認められた旨の報告がされた。

4. 國枝理事長が資料に基づき、来年の次期理事長選出に向けて本年から実施する予定の、理事長公選制に関する細則案の説明を行った。(第3号議案)
5. 第1号議案、第2号議案、第3号議案、はいずれも賛成多数で承認された。

#### 各種報告:

1. 國枝理事長より資料に基づき、昨年11月の事業仕分けに対する危機感から「事業仕分けと科学研究の将来について」と題する緊急声明文を日本天文学会から出したことが報告された。
2. 竹田理事より資料に基づき、本年度会員名簿の作成方針についての報告があった。会員種別・番号と氏名と所属(または職種)は必須掲載で他の四項目は掲載・非掲載が選択可能。
3. 國枝理事長より「今後は天文学会として広報活動の強化と国際化への対応について力を入れて取り組みたい」との将来方針に関する発言があった。
4. 中川貴雄氏より、宇宙科学研究のより一層の推進を目指し、宇宙航空研究開発機構の「宇宙科学研究本部」の名称が4月から「宇宙科学研究所」に変更されること、また相模原市の政令都市移行に伴い住所が若干変わること、の報告があった。
5. 海部宣男氏より日本学術会議の活動報告(全体的な展望と提言、天文学・宇宙物理学の展望と長期計画、天文関係分科会関連の話題、など)があった。
6. 引き続き佐藤勝彦氏より、学術会議長期計画小委員会による報告書「天文学・宇宙物理学の展望と長期計画」が完成したことが報告された。

この文書はすでに [http://www.a.phys.nagoya-u.ac.jp/scj\\_astro/](http://www.a.phys.nagoya-u.ac.jp/scj_astro/) で公開されている。

7. 渡部潤一氏より、大きな成功を収めた昨年(2009)の世界天文年2009の活動の総括報告がスライドを用いてなされた。

2010年4月13日

議長: 國枝秀世 ㊟  
 署名人: 山下卓也 ㊟  
 署名人: 桜井 隆 ㊟

#### 【評議員会議事録】

日時: 2010年3月27日(土) 12:30~13:30

場所: 広島大学東広島キャンパス 理A 017 会議室

出席者: 伊藤紘子氏, 井上 一氏, 岡村定矩氏, 奥村幸子氏, 佐藤勝彦氏, 須藤 靖氏, 谷口義明氏, 筒井 了氏, 牧島一夫氏, 嶺重 慎氏,

望月優子氏, 山田 亨氏, 劉 周強氏, 渡部潤一氏 (以上14名)

欠席者: 家 正則氏, 池内 了氏, 海部宣男氏, 坂田悠氏, 杉山 直氏, 観山正見氏 (以上6名)

他に、國枝秀世理事長, 柴田一成・渡邊鉄哉副理事長, 竹田洋一・高田唯史庶務理事, 田代 信・田村元秀会計理事, 本間希樹年会理事, 宮下曉彦事務長が出席した。

開会の前に、國枝理事長から「今回はやむをえず総会の後の年会最終日に評議員会を開くという異例の日程になって申し訳ない」とお詫びの言葉があった。また先日学士院賞の受賞が決まった佐藤勝彦評議員に理事長からの祝辞が送られ一同拍手で応じた。

議事に先立って議長と署名人の選出がなされた。

議長 : 谷口義明

署名人: 嶺重 慎, 渡部潤一

#### 【報告】

1. 前回議事録の確認

資料1に沿って、前回(2010年1月23日)の評議員会の議事録の確認がなされた。

2. 開催中の年会について

本間年会理事より目下開催中の春季年会についての進行状況(記者会見, 講演発表数, 現時点の参加者数, など)の報告があった。

3. 理事会報告

竹田庶務理事より前日(3月26日)の理事会における報告・議事の主な内容が簡単にまとめて報告された。

4. 理事長公選制について

國枝理事長より前回の評議員会での意見を取り入れた理事長公選制細則の最終版(資料2)が前日の総会で承認されたので、これから予定どおり選挙の準備に入るとの報告があった。

5. 若手からの報告

伊藤氏より当日配付資料に基づき、「天文・天体物理若手の会」についての説明があり、学生への年会旅費補助については申請者に申請受理を通知するとともに支給額等に関する情報を前もって提供してほしいとの天文学会への申し出がなされた。この要望については学会側としても検討してなるべく添うように努力する。また指導教員に対しても、それぞれの学生への年会旅費補助をあらかじめ予算として想定しておくなど、より一層の配慮をお願いする旨を再度周知することとなった。

6. 学術会議会員の改選について

佐藤氏より「学術会議天文宇宙分科会現会員の佐藤・海部の両人ともに任期が来年で切れるの

2010年4月19日

で、新たな候補の人選に関して天文学会側から何らかの意見がいただければ、とても参考になるので、その具体的方法も含めてぜひとも評議員会等で議論してほしい」との要望がこれまでのいきさつとともに説明され、学会側としてもこれに応ずるべく今後の評議員会等でこの案件を引き続き議論していくことになった。

議長：谷口義明 ㊟  
 署名人：嶺重 慎 ㊟  
 署名人：渡部潤一 ㊟

7. 各賞関係報告

國枝理事長より、前回の評議員会でも議論されて宿題になっていた各賞の選考基準の問題などについて、委員会の意見も伺って出した結論が報告された(資料3)。

8. 天文月報林先生追悼記事について

國枝理事長より、先日逝去された林 忠四郎氏(京大名誉教授)の天文学における偉大な業績を鑑み、天文学会としても天文月報にいくつかの追悼記事をまとめて掲載したいとの提案があり、執筆者の斡旋をまず松田卓也氏(元天文学会理事長)に依頼することになった。

9. 100周年記念出版委員会の解散について

創立100周年記念出版事業編集委員会委員長の岡村氏より、「昨年でシリーズ現代の天文学全17巻も完結し、本委員会の役割もほぼ完了したと考えられるのでそろそろ解散への手続きを進めたい」との意向が表明され、理事会等で討議することになった。

[次回の評議員会について]

次回の評議員会は2010年7月3日(土)に行われる予定。

[資料]

資料1. 前回評議員会(2010.1.23)議事録

資料2. 理事長選挙施行細則(最終版)

資料3. 2009年度日本天文学会各賞について

(当日配付分)

- a. 天文・天体物理若手の会の紹介
- b. 年会における院生への旅費(交通費)補助について

日本天文学会 2010年春季年会報告

2010年春季年会は、3月24日(水)から27日(土)の4日間、広島大学(広島県・東広島市)にて口頭講演会場7,ポスター会場6を使って開催された。講演件数は口頭(a)講演が412件、ポスター((b)講演+(c)講演)が238件であり、合計で650講演だった。年会参加者は870名であった。ジュニアセッションのみの参加者も231名あった。開催地理事の小嶋康史氏を始め広島大学のスタッフ・学生の皆さんのご尽力により、滞りなく順調に進行した。また、以下の特別セッションが開かれた。

[ALMA 特別セッション]

世話人：森田耕一郎、立松健一(国立天文台)

	3月24日(水)		3月25日(木)		3月26日(金)		3月27日(土)	
	13:00-15:00	16:30-18:30	9:30-11:30	13:30-15:30	9:30-11:30	13:30-15:30	9:30-11:30	13:30-15:30
A	三好 真 (国立天文台)	今西昌俊 (国立天文台)	大橋隆哉 (首都大学東京)	百瀬宗武 (茨城大)	犬塚修一郎 (名古屋大)	佐野孝好 (大阪大)	相川祐里 (神戸大)	深川美里 (大阪大)
B	川端弘治 (広島大)	梅田秀之 (東京大)	渡部潤一 (国立天文台)	中島潤一 (NICT)	河野孝太郎 (東京大)	酒向重行 (東京大)	平原靖大 (名古屋大)	市川 隆 (東北大)
C	大向一行 (京都大)	児玉忠恭 (国立天文台)	和田桂一 (鹿児島大)	井上昭雄 (大阪産業大)	久保雅仁 (国立天文台)	勝川行雄 (国立天文台)	小路真木子 (京都経短大)	
D	本原顕太郎 (東京大)	市来浄興 (名古屋大)	嶺重 慎 (京都大)	寺田幸功 (埼玉大)	三原建弘 (理研)	河合誠之 (東京工業大)	米徳大輔 (金沢大)	
E	関口朋彦 (北海道教育大)	縣 秀彦 (国立天文台)	水野恒史 (広島大)	深沢泰司 (広島大)	高見英樹 (国立天文台)	山田 亨 (東北大)	山下卓也 (国立天文台)	
F	松本浩典 (名古屋大)	山内茂雄 (奈良女子大)	和田武彦 (ISAS/JAXA)	鶴 剛 (京都大)	田原 譲 (名古屋大)	村上弘志 (立教大)	泉浦秀行 (国立天文台)	幸村孝由 (工学院大)
G	峰崎岳夫 (東京大)	八木雅文 (国立天文台)	河村晶子 (名古屋大)	山本宏昭 (名古屋大)	坂井南美 (東京大)	南谷哲宏 (北海道大)		

座長は前頁の51名の方々に務めていただいた。会場・時間帯別にお名前を示し、感謝の意を表する（敬称略）。

#### 〈記者会見〉

春季年会の前日、3月23日（火）14:00から、広島大学本部2階会議室にて行われた。國枝秀世理事長より挨拶と日本天文学会および各賞の簡単な紹介の後、各講演者から以下のトピックスについて解説が行われた。報道機関4社の出席があった。これらの内容は、4月19日までに確認できたもので、テレビニュースにて2件の報道があった。

#### ● 研究発表

- (1) ガンマ線で探る銀河宇宙線の姿 — 一万光年かなたの高エネルギー粒子—  
記者会見出席者：水野恒史（広島大学）  
関連する講演番号：Q19a
- (2) 超新星残骸 W28 と衝突する星間分子雲からのガンマ線放射の発見 — 宇宙線の起源解明に挑む—  
記者会見出席者：片桐秀明（広島大学）、山崎 了（広島大学）、福井康雄（名古屋大）  
関連する講演番号：Q20a
- (3) 銀河系で最大スケールの星はガンマ線を放射しているのか？ — 太陽の100倍もの質量をもつエータカーリーナ星とその伴星の相互作用—  
記者会見出席者：高橋弘充（広島大学）、内山泰伸（スタンフォード大学）  
関連する講演番号：N13a

#### 〈天文教育フォーラム〉

年会初日の24日午後3時から1時間半、天文教育普及研究会との共催による天文教育フォーラムが開催された。テーマは「世界天文年後の天文教育と普及」ということで、昨年の世界天文年で企画されたさまざまな活動から4名の方に報告をいただいた。

まずは、この世界天文年をきっかけとして昨年12月に東京で開催された「宙博（ソラハク）」について、仕掛人であるインターネット総合研究所の藤原洋さんにご紹介いただいた。宇宙科学だけにとどまらず、宇宙航空工学・環境エネルギー技術という三つの側面をもったこの企画には4日間で3万人近くの入場者があり、一般市民の好奇心に訴えることで社会への新たなアピールとなった旨の報告があった。個人的にもご自身の熱い想いを披露され、今年度の計画の詳細についても話された。今後も10年間は継続していきたいとのことである。続いて、「君もガリレオ」プロジェクトについて国立天文台の縣秀彦さんからの報告があっ

た。安価で組み立ての簡単な望遠鏡を世界中に提供し、観察シートを準備した観測キャンペーンと指導者向けの観測イベント等を開催したプロジェクトの経過と成果を発表された。資金面やスタッフ不足等の問題点などもあったが、国際貢献の意義と全国からの期待以上の反応に励まされ、今年度も継続される予定であることが述べられた。

天文学の一つの特徴として、地域の文化や歴史等とも深いかかわり合いがあるという点が挙げられよう。その視点から、紹介される機会の少ないアジアにおける天体にまつわる神話や伝説を収集する活動として、国立天文台の吉田二美さんに、「アジアの星の神話・伝説」プロジェクトの紹介をしていただいた。成果をプラネタリウム番組や学校教育にも活かすべく、60以上の話が収録される本の準備状況について話された。最後に研究者側からの発信として、学会の副理事長でもある京都大学の柴田一成さんに「全国同時七夕講演会」について報告をいただいた。7月7日の七夕前後の期間に全国各地で同時に講演会を実施し、天文普及につなげようとする試みである。短い準備期間にもかかわらず、全国の100近くもの会場において講演会が開催され、研究者としての意気込みを参加者に伝えていただいた。

フォーラムの開催時間帯が口頭セッションの合間であったために、質疑に十分な余裕をとることができなかったが、参加者も約150名と盛況であった。

（仲野 誠）

#### 〈林 忠四郎賞受賞記念講演〉

年会3日目の総会後、E会場にて17:00から30分間、2009年度林 忠四郎賞受賞記念講演が行われた。講演者は国立天文台の常田佐久氏で、講演題目は「「ようこう」・「ひので」による太陽物理の急進展＝今、太陽がおもしろい！＝」であった。講演では、常田氏を中心となって進めてきた太陽観測衛星プロジェクトおよびその成果についてわかりやすく解説していただいた。会場は200名を超える盛況ぶりであった。

#### 〈研究奨励賞受賞記念講演〉

年会2日目、E会場で15:30からおよそ1時間にわたり、2009年度研究奨励賞受賞者3名の方々に記念講演をしていただいた。一人あたり20分という短い時間ではあったが、それぞれの研究についてわかりやすく紹介していただいた。受賞者と講演題目は次のとおりである（五十音順、敬称略）。内山泰伸（スタンフォード大学）「超新星残骸での宇宙線加速と磁場増幅」、前田啓一（東京大学）「超新星の爆発構造」、山崎



了(広島大学)「ガンマ線バーストの多様性の起源について」. 参加者も 200 人程度と盛況であった. また, 今回は奨励賞記念講演が総会よりも前に開催されたため, 記念講演に先立ち受賞者の表彰も行われた.

#### 〈ALMA 特別セッション報告〉

2010 年 3 月 25 日に, 約 150 人の参加のもとに開催された.

司会進行は国立天文台 ALMA 推進室長の立松健一が行った.

まず, 東アジアのアルマ・プロジェクト・マネージャー井口 聖がプロジェクトの進捗報告, ならびに, アルマの初期観測がどのような装置パフォーマンスのもとで行われるかの説明がなされた.

続いて, アルマ東アジア地域センター・マネージャーの奥村幸子より, アルマの共同利用の枠組みの説明が, 引き続き, 地域センター・サポート・アストロノマーの西合一矢より, 観測提案までに準備されるユーザー支援に関して紹介された. 初期観測で利用できるベースライン長, 偏波観測, 地域ごとの観測時間がどのように保証されるのか, データの品質保証, などに関して質疑が執り行われた.

引き続き, アルマの 3 本のサイエンスの柱のうちの 2 分野に関して, 星・惑星系形成分野から茨城大学の百瀬宗武さん, 系外銀河分野から東京大学の河野孝太郎さんから講演をいただき, アルマの初期観測に対する期待を述べていただいた. (立松健一)

#### 〈懇親会〉

懇親会は 3 月 26 日(金)に学内の大学生協北 2 食堂を会場に開催された. 参加者は事前予約 159 名, 当日申込 52 名, 開催地関係者 38 名, 合計 249 名であった. (事前予約一般 94 名, 学生 65 名, 当日一般 32 名, 学生 20 名) 広島大学から出口理学研究科長の歓迎の挨拶, 海部宣男氏による乾杯の音頭にはじまり, 國枝理事長と次期開催地の藤本理事からのお言葉も盛り込み, 終始和やかに進行した. 西条の地酒も含め, 各種飲み物や食べ物を味わっていただくことができた. なお, 施設収容の都合上, 数多くの事前予約なしの参加希望者を断るのは忍びなかった. (小嶋康史)

#### 〈保育室〉

保育室は広島大学敷地内の「ひまわり保育園」の一室, および理学部 A004 号室を使用した. 10 家族, 子供 14 人の利用があった. 保育者の派遣は株式会社アイ・レンタルに依頼し, 年会実行委員会側は保育室担当が対応した. 準備にあたり, 広島大学の小嶋康史氏

ならびに同大学学生スタッフの方々にご協力いただいたことを感謝する. (奥村幸子, 岡明治)

#### 〈ジュニアセッション〉

第 12 回のジュニアセッションを, 天文教育普及研究会と高校生天体観測ネットワークとの共催, 広島大学, 日本惑星協会の後援で開催した. 口頭発表 45 件とポスターのみ発表 7 件があり, 合計 52 件の発表があった. また, すべての口頭発表はポスターでも発表がなされた. 昨年に引き続き今回も, タイの高校生 6 名が来日して 3 件の発表を行った. 発表内容は多岐に渡っており, 10 のセッション(光害, 装置開発, 飛翔体, 恒星, 星雲・星団, 銀河, タイ, 太陽系, 太陽, 日食)に分けて発表がなされた. 口頭発表は, 3 月 27 日の午前および午後に行われたが, 発表件数が多かったため, 1 件あたりの発表時間は 3 分となった. ポスターセッションは, 11:30 と 15:30 から 1 時間ずつ行った. 口頭発表は, ライブ! ユニバースのご協力により, インターネットで中継された. ジュニアセッションへの参加の手続きをした人数は 231 名であり, 研究者の参加も加えると 300 名ほどの参加者があった. 司会は, 川端弘治氏, 植村誠氏, 吉田道利氏(広島大学), 藤沢健太氏(山口大学)にお願いした. また, お昼休みには, 筆者(吉川 真)が, 小惑星探査機「はやぶさ」についての講演を行った. なお, 3 月 28 日には, 高校生天体観測ネットワークと共同して, 日頃の活動報告を主体とする交流セッションを行った. 全体を通して, 開催地のスタッフの方々には多大なご協力をいただいた. ここに協力していただいたすべての方々に感謝の意を表したい. (吉川 真)

#### 〈公開講演会〉

研究発表講演の前後の 1 日を選んで一般市民向けに講演会を毎回開催している. 今回は, 3 月 28 日(日) 13 時 30 分~16 時 10 分に東広島市中央公民館 大ホールにて, 「広島から宇宙を探る一天文研究フロンティア」というテーマで行われた. 前日までの寒さも和らぐ好天の下, 約 100 名に及ぶ熱心な来場者に恵まれた.

半田利弘天文教育担当理事の司会により, 渡邊鉄哉副理事長の挨拶に続き, まず, 観山正見台長(国立天文台)の講演「『第二の地球』探査と生命の存在確認に向けて」が行われた. コンピュータ映像を用いた宇宙の広がり, ドップラー法と直接撮像による系外惑星探査の現状, 生命存在を示唆する信号とは何か, 星間有機分子の探査, それらに関連する天文学の大型計画など豊富な内容が紹介された. 続く, 寺田健太郎

准教授（広島大学）の講演「石をみる：イオン顕微鏡 SHRIMP で探る太陽系の歴史」では、世界最高性能を誇る広島大学のイオン顕微鏡 SHRIMP を使って隕石の組成が詳細に分析できるようになった結果、太陽系誕生時の微惑星で起こった未知の分化過程を発見したこと、従来の説を約4億年さかのぼる月太古の火成活動の痕跡を発見したことなど最新の成果が紹介された。大杉 節特任教授（広島大学宇宙科学センター）の講演「地上からみる：かなた望遠鏡で探る突発性天体」では、小型ながら高い機動性をもつ“かなた望遠鏡”を用いることで、短い時間で明るさが大きく変わる天体やそれらが示す偏光の観測によって、遠い銀河の超新星爆発やブラックホールが引き起こすさまざまな現象が解明されている状況が紹介された。最後に、深澤泰司教授（広島大学）の講演「上空からみる：フェルミ衛星が描き出すガンマ線宇宙」では、広島大学が中心となって開発した観測装置が搭載されたフェルミ衛星によって、宇宙のさまざまなところでガンマ線を放つ天体が発見されていることやガンマ線観測によるダークマターの正体に迫る研究などについて紹介された。講演後に設けられた質疑応答の時間には熱心な質問が相次ぎ、来場者の関心の高さがうかがえた。

前回に引き続き、アンケートを実施し回答数70を得た。数年程度は継続して実施し、今後の宣伝方法やプログラム編成の参考とする考えである。

なお、本企画は広島大学、広島大学宇宙科学センターとの共催で、広島県教育委員会、東広島市教育委員会の後援で実施された。（半田利弘）

#### 〈東広島天文台見学〉

公開講演会終了後、天文学をより身近に体験できる機会として東広島天文台・かなた望遠鏡の見学会を広島大学宇宙科学センターの協力で行った。参加者は43名でバスや自家用車にて天文台を訪れ、施設見学や学生・教員との気軽な質問時間となり夕刻の約1時間を有意義に過ごしたようであった。（小嶋康史）

（年会実行委員長：本間希樹）

#### 【会員名簿作成に向けたお知らせ】

本年2010年秋に日本天文学会会員名簿を発行いたしますが、それにいかなる項目内容を掲載するかの方針は理事会の決定、評議員会、総会への報告を経て以下のように決定いたしました。

- 原則全員掲載：①会員種別番号、②氏名、③所属〔or業種〕

（ただし所属名は希望に応じて一般的職種名に書き換え可とする）

- 掲載・非掲載を選択可能：④メールアドレス、⑤所属先電話番号、⑥自宅住所、⑦自宅電話番号

（ただし問い合わせに対して無回答の場合のデフォルト措置は、④と⑤は掲載、⑥と⑦は非掲載）

#### 【基本方針】

今回実施したアンケート（2009年12月上旬実施）で最も支持の多かった選択肢をベースとして採用することにした。

#### 【所属先記載に関するオプション】

「所属先の具体的な名称はできれば出たくない」という声にも配慮して、「必須項目の『所属先』は『所属先または業種』という名称にして各人の希望に応じて一般的な職種・業種に書き直しても良いことにする」とのオプションを加えることにした。

デフォルトでは現在会員データベースに登録されている所属先の具体的な内容をそのまま掲載。しかし、希望する場合は「具体的な職場の名称でなくても現在の境遇や業種が大体わかるような表現に書き換えてもよい」とします。たとえば大学非常勤講師、小学校教諭、団体職員、技術系会社員、自営業、著述業、無職など。

個人情報保護法に則り、各人の意志でなるべく掲載項目を選択できるような上記の方針にし、かつプライバシー尊重の観点から希望者に対する追加のオプションも導入しましたが、本来会員名簿というものは会員間の連絡や交流のために存在するものです。もしその機能が失われたら折角お金をかけて作るものの意味がなくなりますので、コンタクトに必要な最低限の情報は差し支えない限り掲載にご協力ください。特に大学や研究所等の学術機関に研究者・技術者として専任で勤める（あるいは学生として在籍する）会員、あるいは光学機器関係や科学雑誌関係の企業や、公共天文台や科学館など天文に関係深い職場に勤務する会員は、所属先・所属先電話番号・メールアドレスを掲載されることが強く望まれますのでよろしく願います。

ご回答は、以下のいずれかの方法でお願いします。能率化、手書き情報の誤判読を防ぎたいので、やむをえない事情がない限り、下記(1)の電子メールで申請していただきたいのでよろしくご協力ください。(1) 日本天文学会のwebサイト (<http://www.asj.or.jp/>) の「各種手続・書式」にある回答用書式を使用してメールで当方の受付専用アドレス ([meibo2010@asj.or.jp](mailto:meibo2010@asj.or.jp)) に送る方法。(2) 本号に折り込んだ郵便はがき（送料当方負担）に記入して投函する方法。

なお、回答のない方の掲載情報は、上に述べましたように、所定のデフォルトの措置を取らせていただきますのでご了解ください。締め切りは7月末日とし

ます。名簿の発行は11月を予定しています。

[日本天文学会事務所]

(社)日本天文学会へ2010年1月24日～3月26日までの間に入会された方、移籍された方、退会された方をお知らせします。

**正会員入会 (13名)**

土井健太郎	甲南大・大学院 (在学)	阪口 翼	大阪府立大・理 (在学) 大学院進学予定
青田拓大	神戸大・大学院理 (在学)	八嶋信平	大阪府立大・理 (在学) 大学院進学予定
石崎剛史	総研大 (在学)	山澤大輔	北海道大・大学院理 (在学)
葛原昌幸	東京大・大学院理 (在学)/国立天文台	鈴木裕子	東京学芸大・大学院教育 (在学)
片瀬徹也	大阪府立大・理 (在学) 大学院進学予定	大橋健次郎	東京学芸大・教育 (在学) 大学院進学予定
木澤淳基	大阪府立大・理 (在学) 大学院進学予定	酒井理人	名古屋大・大学院理 (在学)
辻 英俊	大阪府立大・理 (在学) 大学院進学予定		

**準会員入会 (8名)**

福地博文	神奈川県大和市在住	篠原純也	いすゞ自動車中国(株)
武島佑季	帝京大・理 (在学)	佐藤英貴	東京大・大学院医 (在学)
正木彰伍	名古屋大・大学院理 (在学)	菅原雅浩	航空自衛隊/放送大学 (在学)
森田うめ代	(社)日本物理学会	鈴木大介	名古屋大・大学院理 (在学)

**移籍会員 [準→正] (3名)**

甘日出文洋	東京大・大学院理 (在学)	梅津 実	東北大・大学院理・天文
笹田真人	広島大・大学院理 (在学)		

**正会員退会 (3名)**

田中宗親 沼田和俊 林 忠四郎

**準会員退会 (1名)**

大曽根聡子

天文月報オンライン/投稿用アップローダーのIDとパスワード

ID: asj 2005

パスワード: 雑誌コード (5桁の数字と) **vol98** (5文字) の計10文字を入力してください。「雑誌コード」とは印刷版の月報の裏表紙の右下に書かれている「雑誌○○○○○—▲」の○○○○○の部分です。○○○○○は各号共通の数字です。

児玉忠恭(編集長), 浅井 歩, 柏川伸成, 衣笠健三, 鈴木 建, 徂徠和夫, 竹井 洋, 野田寛大, 浜名 崇, 三好 真, 山崎 了, 吉田直紀

平成22年5月20日 発行人 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会

印刷発行 印刷所 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 3-8-8 株式会社 国際文献印刷社

定価700円(本体667円) 発行所 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会

Tel: 0422-31-1359 (事務所)/0422-31-5488 (月報) Fax: 0422-31-5487 振替口座 00160-1-13595

日本天文学会のウェブサイト <http://www.asj.or.jp/> 月報編集 e-mail: [toukou@geppou.asj.or.jp](mailto:toukou@geppou.asj.or.jp)

©社団法人日本天文学会 2010年 (本誌掲載記事は無断転載を禁じます)